

いい話と悪い話と

近況報告のようなものですが、悪い話から。

昨年暮れからこの2月にかけて、ボクの人生観に多大な影響を与え続け、随分お世話になった先輩が、立て続けに亡くなった。

死んでしまえば、いかに優秀であっても、その人の持っている知識、技術、判断力、経験、哲学、人脈、他人とのつながり、危機管理や思わぬ異変に対処する能力、他人への影響力、これから入手するであろう楽しみ、今後やろうとしていた夢などなど、あらゆることが一瞬にして失われてしまう。

もう会えないかと思うとちょっと寂しいかな。忘れていたいろんなことが、ひょいと思い出される。

いい方の話。

正月、高校の同窓会に20数年ぶりに出席した。今は恒例のメンバーが、わいわいと騒ぐ会になっている（これがいやだから出席しないという人がいることは事実である）が、この10年だけでもかなり欠けてきていて、エッ、アイツも！というのが何人か。

特筆したかったのは、数十年ぶりにあった男に驚いたことである。仲はいい方だったのだが、音沙汰なしで過ごした。だから何をしてきたのかも知らない。驚いたのはその漂わせる雰囲気である。絵に描いたような品のいい、老紳士になっていて、年齢を重ねてこういう紳士になりたい、と目標にしたいような雰囲気を醸し出していたのである。テニスをしていて、高校生の頃はやや軽薄な感じもあったのだが、スマートで、この男がその場にいるだけで品良く格調高い場にしてしまいそうな男になっていた。脱帽してこうありたいと思った。もともとええし（関西訛りで、いい衆のこと）の出だが、氏もだろうが育ちだろう。こういうのを具現している男を尊敬する。存在するだけで、知的な雰囲気、優雅な感じをもたせる。余裕すら感じさせる。できればこうありたいが、これは持って生まれた質のものだから、われわれには不可能だろう。現に、何人もの同窓生がいて、いわゆる偉いさんになっているのも数多くいたのだが、これだけの雰囲気を持っていたのは他にいなかった。

TVで明石家さんまの番組だったのだが、（ちなみにボクはさんまちゃんが坊主頭でTVに出演したころから知っている。）番組の最後に、「今まで出演してきたバラエティ番組のなかで、どれがもっともすぐれていると思いますか？」との質問に対し、いろいろギャグをとばしながら、最終的な答えは「今日やね！」

これはちょっと驚いた。チャールズ・チャップリンが「今まで制作してきた映画の中でもっともよかったものは何か？」と問われたとき、即座に“Next one!”といったことと通じるもので、バラエティの域を超えている。ただし、さんまちゃんのバラエティは、その場その場の当意即妙の対応が持ち味だから、代表作を選ぶのは困難かもしれない。

自分にとっていいことは話してしまえば壊れてしまいそうだから、書きません。ひとつだけ。先日通勤の時に、同じようなところで2日続けて100円玉を拾った。こういうのは非常に嬉しいもので、そこでその後買った宝くじはあたりませんでした。せいぜい100円くらいの値打ちなんだろう、と妙に納得した。

30数年来の友人が、普段はこちらの話に相槌をうったり、補完をしたりするくらいで、あまり自分のことを積極的に話す人ではないのだが、この日は、こちらの話の腰を折ってまで語ろうとする。この人とのなれそめは、製薬会社のプロパー（現在はMR）でどうもずれた発言をする男で、先に書いた亡くなった先輩とバカにしていたのである。夕方になると、いつものように新潟あたりから取り寄せた1升瓶をとりだして、呑み始める。で、1滴呑んだら人格が激変し、仲がよくなった。

最近、前立腺がんの手術をした。麻酔から目覚めると、「オレは生きている・・・」と涙が出そうになるほど感激し、今後の人生を考えた。そして少しでも皆さんのお役に立つようなことをしたいと、大学に通って長時間の講義に耐えた。今、日本語を教えているんですと言う。たとえば名古屋でもトヨタがあるから、いろんな国の人間が来る。そういう人たちへの日本語教育は重要になっている。そういう人々に日本語を教えながら生きて役に立っていることを実感しているという。69歳の大学生であった。

2017.05.20.